

1 令和4年度第3回定例会

日 時： 令和4年8月26日（金）午後2時30分から午後4時00分
場 所： 本館 講座室
出席者： （図書館協議会委員）委員6名
 （事務局）図書館長、中央図書館整備担当課長、企画運営係長、
 総務担当主査

会長 本日は副会長が欠席である。委員定数の半数以上の委員が出席しているので多摩市図書館協議会規則第4条により令和4年度多摩市図書館協議会第3回定例会は有効に成立する。

事務局から配布資料の確認をお願いする。

配布資料確認。

会長 本日の議題に入る。議題1 令和3年度図書館事業評価【外部評価】について、事務局から説明をお願いする。

事務局 評価に関して、前回の会議では基本目標1と2についてご意見いただき、評価をしていただいた。前回の会議の中でいただいたご意見を今回の資料3-1 外部評価ということでまとめた。これについては、事務局でまとめた後に会長に確認いただき、委員のみなさんに直接資料として郵送したものである。

会長 前回のものについて確認し、みなさんのご意見の趣旨は損なわないように少し修正したものである。これについて、意見などがあれば、うかがいたい。

委員 基本目標（1）と（2）について、5ページの若年世代のとあるところで、「中央図書館ができた際に探求学習を支援するような」とあるが「探求」ではなく「探究」であるので、修正いただきたい。

図書館長 修正をする。

会長 他にないようなので、今日の議題である基本目標（3）の図書館の評価について、事務局より説明をお願いする。

図書館長 資料の10ページである。基本目標（3）市民や地域に役立つ図書館ということで、この中では取り組み6 読書活動振興のためのイベントの開催が評価項目である。これについて、実施結果と図書館の自己評価をまとめた。取り組み6は市民の図書館利用の促進を図るため、図書館について関心をもってもらえるイベント等を検討し、実施するというところで、ミニ仕事体験&

バックヤードツアー、利用者懇談会、ビブリオバトルの紹介展示と3つあげた。ミニ仕事体験&バックヤードツアーは、アンケートも実施した。図書館の自己評価としては、定員20人のところ、申込は定員より多かった。アンケートの結果をみると70パーセント以上の方が満足と答えている。図書館としても単純にイベントを行うだけでなく、図書館で自分で本を探す方法や図書館を使いこなす方法などの説明をし、さらにバックヤードツアーと本の装備体験を盛り込み、非常に好評であった。令和4年度も同じように開催したい。

利用者懇談会は、参加者が少ない状況である。電子図書館とデジタルアーカイブについての紹介を設け、それについては「使いやすい」、「電子書籍については、もう少し資料を増やした方がいいのではないか」といったご意見をいただいた。事務局の方で検討して、反映できるものは実施していきたい。

ビブリオバトルの紹介展示は、前回の評価の中でも紹介しているが、2ページにあるように大学生のおすすめ本の貸出状況を表として追加した。もともと人気の高い本が多いが、展示期間中の貸出状況としては、貸出回数が多かったり、少なかったものなどもあった。

- 会長 基本目標(3)について、ご意見をうかがいたい。
- 委員 質問であるが、大妻女子大学の学生の方は、実際にビブリオバトルをいままでやっていたのか。
- 図書館長 コロナ禍前は、図書館と共催でビブリオバトルを毎年行っていた。3回実施をしているが、コロナ禍でなかなか実施が難しく、違う方法で何かできないかということで、これまでのビブリオバトルの中のチャンプ本の展示を前々回のグリナード永山のほんともフェスタで展示をし、更に本の紹介をブックリストとして作ってもらうことを昨年度実施した。ビブリオバトルの代替りの形として実施している。
- 委員 実際にやっていた時は、小学生・中学生・大人と分けてやっていたのか。
- 図書館長 始めてから2年間は、特に分けずに実施していた。3回目の時に年代を分けた方がいいのではないかということで、中高生の部と一般の部ということで実施をした。
- 委員 小学校などでは、実際、学校の中でよくやっていると思うが、小学生、中高生、大人というように対象を広げた方がいいのではないかと思う。

また、その対象であるが、ミニ仕事体験&バックヤードツアーのところを読ませてもらったが、これは年齢が小学校3年生以上で実施しようとしたが、実際は、3年生より小さかったとなれば、図書館の使いこなし方を教えても飽きてしまう子もいたのは当然だろう。まず、申込のあった22人というのはどういった年齢層だったのか。

図書館長 小学校3年生以下の子がほとんどで、親子連れで来るという参加者が多かった。図書館として予定していたのは、ある程度小学校3年生以上の子どもと中高生くらいの年代で、それに合わせて、本の探し方や分類の説明もしようと思っていたが、実際は、「ツアー」として出しているのでも、低学年の子が多かった。そこは、マッチしていなかった。細かい年齢層は、資料が今ないので、改めてお伝えする。

委員 申込の際には年齢を記載する欄はあったのか。

図書館長 対象を絞っていたので、学年は聞いた。

委員 対象によって、実施するものも全く違ってくると思う。小学生なら小学生、中学生なら中学生の専門的なやり方があると思う。保護者が来た場合は、カバーの付け方などとても有効だったと思う。次回は、予めターゲットを絞ってやる方が、せつかく用意したものも飽きることなくできるのではないか。

委員 告知はどのように行ったのか。

図書館長 告知は、市のホームページと図書館ホームページ、市内の掲示板で行った。

委員 直接、子どもたちが目にすることは多くなかったということか。

図書館長 例えば、教育委員会だよりといった家庭に直接配布されるものもあるが、申込期間が限られており、タイミングが合わず、掲載できなかった。

委員 何かイベントを実施する時の告知方法は大事だと思う。例えば、利用者懇談会もどのように告知されたのかと疑問に思う。告知の手法によって、集まってくる人たちが変わってくる。どの層の利用者を集めるかによって告知方法を変えていかないと集まるものも集まらない。実施結果と自己評価で「PR方法に課題が残った」とあるが、今回のPR方法はこうだったから、次のPR方法は課題があるというのを載せていくべきだと思う。

図書館長 昨年度の後半から、ツイッターとラインをかなり頻繁にやっ

ている。ミニ仕事体験&バックヤードツアーは今年度も実施するが、昨年度の反省を活かし、やはり小学校低学年は保護者も申込やすいようなので、今年度は3年生以上にして、内容は分類の話をするのではなく、クイズ形式でやったりとか、内容を低学年くらいであっても分かりやすいような方法で実施する予定である。

委員 ミニ仕事体験&バックヤードツアーは、自分の子どもは低学年だが本当は参加したかった。チラシの内容は覚えていないが、パッと見て、子どもを連れて行こうと思った。大人も対象だったので、自分も興味があるが子どもに体験させたいと思った。子どもが見て、子ども自身が行きたいというよりは、親が体験させてあげたいと思うようなチラシだったように思う。きっとそういう親が多かったのではないか。図書館の目的としては、図書館利用とかだったのだろうが、もし可能なら、低学年バージョンもあるといいと思う。

会長 委員が言ったように、告知の方法は非常に重要だと思う。告知の方法一つでイベントが変わってくると思う。

そもそも取り組み6 読書活動振興のためのイベントの開催というタイトルがついているが、実際行ったイベントは3本だが、毎年3本か。

図書館長 イベント自体は講演会などいろいろなものをやっているが、読書活動振興のためのイベントはこの3本である。

会長 バックヤードツアーは17名、利用者懇談会は2回で9名ということで、開催のために労力をかけているわりに人数が多ければいいということではないが、告知自体に何らかの効果が表れるようにしなくてはならないと思う。告知に効果があったのか無かったのか、ビブリオバトルも最後のところに広くPRすることができたとあるが、エビデンスはあるのか。利用者懇談会もホームページを見ると、結構、辛辣な意見があったが特長的な意見があったら教えていただきたい。

図書館長 利用者懇談会の意見に関しては、まず図書館から電子図書館のこととデジタルアーカイブについて、利用の仕方などを説明した。電子図書館については、見てはいるが、コンテンツが古いとか一般書が多いといったご意見があった。また、旅行関係の電子書籍もあるのでそういったものが電子書籍でみられるのは良かったというご意見もいただいた。小中学校の子どもたちにはどの程度宣伝をしているのかというご意見もあり、教育委

員会だよりや広報でのPRなどをしており、また、電子書籍を使用するには利用者カードが必要になるが、それも学校経由でとりまとめていただき、図書館で交付、学校から配布いただくという仕組みをつくったので、何校かはそのようなかたちで利用者カードを作成した。電子書籍の中では行政資料をもう少し載せた方がいいのではないかとご意見をいただき、直ぐにできることではないが、内部検討していく。デジタルアーカイブについては、掲載しているものの中には市史などもあり、多摩の歴史などを興味深く見ていただいているようだ。「おしゃもじさま」という絵本も掲載しているが、手にとることはなかなかないが、アーカイブで見られるのはよかったといったご意見をいただいた。それ以外で図書館についての意見交換の中では、中央図書館が今後開館していく中で、市民と対話しながらサービスを考えていってほしいとか、昨年度、開館時間に関するアンケートをとったが、そのアンケートについてはもう少し図書館で分析をしてからアンケートを取るべきだったのではないかと、また、市民との対話のプロセスをしっかりとって欲しいと意見があった。地域館の運営については、地域館の蔵書が減っているのではないかとということで心配しているといったご意見があった。これについては、図書館としては本の整理をしており、中央図書館が開館したからといって、地域館の本を闇雲に減らすということは考えていない。これについては、PRが足りていないと認識したので、やまばと通信などで、各図書館の近況などを掲載することにした。また、認知症に関しての意見交換なども多く、認知症であるが本が読みたいという方やどういう風に利用いただくかというところで、今年度、認知症カフェを図書館でやってみようということになったところである。

委員

利用者懇談会であるが、参加者が少ないというのは、どういうPRをしたかということもあるが、会場も本館と東寺方の2カ所だけであった。東寺方は、東寺方の地域の方が集まるにはちょうどいいのだろうが、本館は地域の方が集まるにしても集まりにくい場所である。駅前の永山図書館とかの方が集まりやすかったのではないかと。また、利用者懇談会って何をやる場なのか、一般の利用者にはわからなくて、やると言われても集まらないのではないかと。利用者懇談会にこういう意見ある人来てくださいますか、利用者懇談会の目的だとか、それ以外の楽しいことをやったりして、集まりやすい雰囲気を作るのも大事な

ではないか。利用者懇談会に参加するぞと構えている方は絶対行くぞとなるかもしれませんが、一般の利用者はあまり興味がないと思うので、興味を引くようなことと一緒に実施したらいいのではないか。

図書館長 興味を引くこともということであったが、昨年度の懇談会では電子書籍とデジタルアーカイブを絡めて説明と使い方もお伝えすることをセットにして行っており、その前は図書館システムが変わったので、検索の仕方や図書館ホームページの使い方を実際、見せながら一緒にやってみようという形で実施し、工夫をしているつもりである。もう少し、やわらかいPRの仕方を考えていきたい。利用者懇談会は、毎年2か所で実施すると図書館で決めている。前は本館と東寺方図書館であったが、毎年2館ずつ順番に回っている。会場は、その館で実施している。利便性もあるだろうが、実施する館に来てもらうということで実施している。全7館で毎年実施するというのはなかなか手が回らず、難しい。ミニお仕事体験&バックヤードツアーは人気があったので申込はたくさんあった。周知したけれど来なかったということではない。

委員 利用者懇談会を毎年やっていて、今回だけ参加者が少ないのか。毎年少ないのか。

図書館長 毎年このくらい的人数であるが、コロナ禍になってからは、定員を絞って受付をしている。ただ、定員が埋まらない状況である。

委員 コロナの前は、どうであったか。

図書館長 もう少し多かった時もあった。

コロナ禍ということで、バックヤードツアーも人数を絞って、二手に分かれてツアーをしたりと工夫しながら実施している。結果として、欠席があり、参加者が少なくなってしまった。

会長 定員を絞って、コロナ禍だからたまたま来ないのか。違った理由があるならば、やり方を考えないといけない。

委員 先日、「やとのいえ」の八尾慶次さんのお話を聞いたが、ちょうど市長さんがいらっしゃって、豊ヶ丘小学校のボランティアの方と市長さんとお話をした。市長さんが「絵本も大好きで、読んでもいますよ」とおっしゃっていた。例えば、利用者懇談会の時に市長さんも加わっていただくとかイベントに呼ぶとかしてもらえたらいいのではないかと思う。

会長 多摩市って、市長と語る会はやっているか。

- 図書館長 やっていた。
- 委員 ミニ仕事体験&バックヤードツアーは、すごく興味がある。図書館としては、どれくらいの年齢の人に来てほしかったのか。
- 図書館長 小学校3年生以上でというところだが、1人で来れるとなると高学年や大人になるが、幅広い年齢層に来ていただき良かった。小学校中学年以上を想定していた。
- 委員 いい内容だったので、今のような夏休みの自由研究の時期に実施したらよかったのではないか。社会的にもいろいろなバックヤードを見せる、キャリア教育にもつながっていると思う。実際、そういう仕事についてみたいとかといった契機になると思う。
- 会長 図書館の職員というとカウンターに座って本の案内をすればいいと思っているかもしれないが、実は力仕事メインだったりする。体験してもらおうと実態がわかる。
- 委員 気になっていたのだが、利用者懇談会というのはどういった方々が来るのか。
- 図書館長 図書館をコアに利用している方が多い。
- 委員 ハードユーザーの方が多いということで、何か言いたいことがあるとかという方が多いと思っているが合っているか。
- 図書館長 合っていると思う。後は、先ほども認知症の話が出たと言ったが、その方は多摩市の図書館を使っているとかではなく、図書館ってどういうことをしているのかなといった感じで参加いただいた。懇談会の中で話の幅がちょっと広がった。多分、もっとそういった図書館を普段利用いただいていない方も含めてきてもらい、幅を広げるのが本来のあり方なのかなと思う。
- 委員 私もそうだと思う。利用者懇談会であるが、本当にやりたいのは未利用者懇談会で、使っていない人がなぜ使わないのか、ということを知りたい。利用者もパワーユーザーからちょっとだけ来ているといったいろいろなレベルがあり、本当はそのいろいろなレベルの方みなさんに来てもらいたい。この利用者懇談会の誘い方だとやはりコアなユーザーしか集まらなくて、本当に来ていただきたい方に来ていただけていないのではないか。この機会にガラッとやり方を変えてもいいのではないかな。想定する参加者も変えてみるのもいいのではないかな。
- 図書館長 出来たら、外部評価なので評価としてまとめていただきたい。
- 会長 基本目標(3)についての主だった意見は、告知方法・PRについてもっと工夫は出来ないのか、利用者懇談会については敷

居を低くできないか、利用者懇談会はどんなものか、例えば市長を呼ぶとか工夫ができないか、ヘビーユーザー以外の方の参加ができる工夫ができないか、コロナ禍で参加者を絞ったが数が少ないのはどういうことか、工夫ができないか。ミニ仕事体験&バックヤードツアーは教育上有効で評価できる。

ビブリオバトルの広く PR することができたとあるが、エビデンスはあるのか。

図書館長 ビブリオバトルはコロナ禍で開催できなかったが、集客のあるグリナード永山でビブリオバトル紹介展示を行うことで広く一般に PR 出来たとまとめた。

委員 掲示をいろいろな方が見ていると言う事を例えば、掲示に付箋を貼ってもらうとか、チラシの持ち帰りの数とかで、効果を掴み取る手立てがあってもいいのではないか。

会長 続いて基本目標 (4) について事務局より説明をお願いします。

図書館長 資料の 13 ページである。基本目標 (4) しらべるを支え、つながらる図書館で、この中では取り組み 10 デジタル資料の提供で、項目としては 3 点あり 1 点目はデジタルアーカイブの公開することで 2 ヶ年にわたり公開してきた。閲覧回数は、4 月から 3 月までで 328,812 回である。令和 3 年の 1 月に 1 回目のアーカイブの公開をし、追加のコンテンツを令和 3 年の 10 月に公開した。それ以降、1 日平均 1,374 件閲覧されている。例えば、今年の 7 月だと 1 日平均 1,984 件閲覧があり、レベル維持をしている状況である。内容も広く多摩市の歴史や図書館の持っている資料を公開しているが、学校教育でも使用できるように構築をしたので継続して使用されていると考えている。

2 点目は、オンラインデータベースの利用促進のため、利用講座などを実施する予定だったが、対面式ではない方法でできないか検討したが、課題があり実施できなかった。職員向けにレファレンス等で利用者に案内が出来るよう法律情報のオンラインデータベース研修を実施した。

3 点目は、電子図書館コンテンツを充実させるとともに、電子図書館の利用促進を図る中で、令和 3 年の 1 月から開始し、着実にコンテンツを増やしていった。利用促進にあたっては、電子図書館のホームページ画面上に特集を組んで本を紹介し、定期的に入れ替えをおこなったり、継続的に利用されるようツイッターやラインなどで PR したり、定例校長会などで紹介をした。そういった PR をしていくことが継続した利用につなが

ると考えている。

電子書籍の利用促進を図るためパスワード発行が必要になるので、パスワード発行方法の見直しや、登録方法のPRを行った。

会長
図書館長 アーカイブの閲覧回数について、前年度比はどれくらいか。
令和3年1月25日から始め、当時は大体、1日当たり500～800件の間である。8月は1日平均741件、新しいコンテンツを追加で公開した後は、1日平均1,347件、今年度に入って副読本などもアーカイブで見えて授業を進めているので継続的に学校等で使われていることもあり、1,900件程度アクセスがある。ある程度、継続的に伸びた上で安定している。

利用者の声としては、多摩市史などは図書館に来ないと見れない中で、簡単にキーワード検索できるので使い勝手がよいとご意見としていただいている。図書館の職員もデジタルアーカイブを使って、レファレンスをしている。市の職員も利用して窓口で案内してもらえよう庁内でも周知している。

会長 多摩市の独自の資料で令和2年度から3年度にかけて、タイトル数が飛躍的に伸びている。これはなにか思惑があつてのことか。

閲覧回数も前年度比だとどれくらい違うのか。

図書館長 独自資料のタイトル数は、令和2年度は主に2月と3月である。令和3年度は年間で33件あった。今は、広報や毎年度発行する各施設の広報誌や報告書を掲載している。今後の考え方として、八王子市などは古い広報を掲載し、アーカイブのように使っているので、そういう方向で使っていくか、行政資料を電子書籍の中で掲載していくか、内部で検討中である。今は、市民が見てもらい多摩市についてよくわかるという内容のものを中心に掲載している。

会長 市民からの反応はどうか。

図書館長 市民からは、広報がすぐ見られるので広報の閲覧回数がとても多い。

委員 デジタルアーカイブを利用している。多摩市史とかは満足している。昨年度より今年はいろいろなものが入り、より利用しやすくなっている。最新では市制50周年記念誌が入っている。また来年から常に1年ごとのアーカイブが有る訳で、今までのところは評価できるので、今後も常に新しいものを入れてほしい。

- 図書館長 多摩市史の後、市史的なものは50周年記念誌まではなかったので、市史と50周年記念誌がセットになったので多摩市についてはよくわかるようになったと思う。市としては市史の発行は今後予定していないので市史はここまでである。今後は、社会科副読本の改定に合わせて載せていく。その他は予算等もあるので検討中である。
- 委員 これから、もっとデジタルアーカイブは大事になっていくと思う。子どもたちが学校の授業で使っているということで、教える先生も地域の伝統文化を知る上でもデジタルアーカイブは今後も重要となっていくと思う。これからも深めてほしい。
- 委員 パスワードの発行が自分で出来るようになったのはとても良い。
- 会長 電子図書館の利用状況を把握する指標の設定について、目標値の根拠は何か。
- 図書館長 電子書籍の利用状況の指標は特にないというところもあり、数値が出せないのが、効果として図れるよう指標を作成した。電子書籍の貸出率目標1以上というのは、所蔵している物は基本1回以上使われることを指標とした。紙の本でもそういった考え方がある。紙の本も蔵書回転率ということで数値を出したら、ほぼ同じであった。
- 電子書籍は図書館が閉まっている間でも利用できる場所が利便性だと思うので、貸出回数に占める閉館時間中の貸し出し回数の割合も指標とした。閉館中も利用が出来ているということが表せると思い設定した。
- 会長 結果的に、令和3年度は両目標値とも図書館にとっては満足できる数値になったのか。
- 図書館長 図書館として立てた目標については達成することができたと思っている。
- 会長 電子書籍の貸出率というのは、貸出率を上げたいのであれば目標値が1ということは今後ないのではないか。
- 図書館長 まずは、1という設定をしたので、今後は目標値を上げていきたい。
- 会長 電子書籍の洋書の購入であるが、200点以上とあるが傾向はあるのか。例えば、日本を紹介するものであるとか、文学であるとか。
- 図書館長 英語の多読について、紙の本も力を入れているので、そのの

部分を選んでいる。

企画運営係 基本的には、読みやすいものを選んだので、文学や小説や料理のレシピ本、実用書、日本の紹介も少し入れた。

会長 その狙いは、日本人の英語学習には役立つかもしれないが、それ以外の日本語を母語としない人たちも両方狙っているということか。

委員 デジタルアーカイブ公開と独自資料の公開については非常に利用促進がされてとても良い内容である。特に独自資料の公開は今後さらに増えていくので利用促進を図りたい。今後どういうものが欲しいか利用者の意見収集が何かあると良いかな。

オンラインデータベースの利用講座についてはコロナ禍の状況では対面では難しいので仕方なかった。各データベース提供者からチュートリアルビデオの様な物は提供してもらえないか。公開できればそれをもってきっかけ作りとなる。自分たちが実施できないところは、他人の力を借りましょう。

電子書籍コンテンツは非常に頑張っている。またパスワード等の部分についても貸出率についても順調だったと判断できる。データとしては、電子書籍の主題別の利用状況を知りたい。どういうものを好んで読むか、今後、どういうところに力を入れていくべきかということが見えてくるのではないかな。もし、資料があれば、取り組みの結果の中に入れておくといいと思う。

図書館長 9月に「多摩市の図書館」という令和3年度の事業報告として、統計の新しいものを出す、その中に分野別の貸出回数を資料として掲載する予定である。

委員 電子図書館を見たが書影が入っているのがいい。書影があるとないとでは、読もうか迷った時の印象が違う。

委員 デジタルアーカイブは小学校や中学校ではまだ活用されていないのが現状なので、学校側も力を入れ周知して、効果的に活用できるようにしたい。

図書館長 定例校長会でもお話しているが、学校でどのように使っているか分からないので、そこを是非、教えていただきたい。

実際、アーカイブの中では小・中学生用のコンテンツとしてゴーヤンと言うキャラクターのアイコンから入ると副読本からリンク先まで殆どが網羅されているので、授業で是非使ってほしい。

委員 パスワードを自分で発行出来るようになった事は凄い良かった。今後の利用につながると思う。

電子図書館の告知をいろいろなところで見かけるので周知はよくできていると思う。閲覧数もあまり落ちていないということなので、維持できるよう頑張ってもらいたい。

会長

続いて基本目標（5）について事務局より説明をお願いします

図書館長

資料の17ページである。基本目標（5）弾力的な管理・運営で、取り組み13職員体制の見直しである。項目としては2点あり、1点目は、専門性の向上のための研修を実施するとともに都立図書館などが開催する外部研修に職員を派遣する。

職員を派遣したが、コロナ禍と言う事で、参加人数を減らしたり、回数が減った研修もあったが参加できるものはしっかり参加した。会計年度任用職員等なかなか研修に参加できる機会のない職員もいるので8回課内研修をしっかりと実施した。また、司書課程の研修として実習の大学生2大学と小中学校の教員初任者研修2校を受け入れた。職場体験は、学校の方で中止となった。

2点目は、窓口業務やバックヤード業務の業務改善を検討し実施する。内部検討という事で、職員全体会などで、組織改正についてまとめ、また、業務の効率化について検討し実施した。内部的な業務の省力化や予約電話に伴う業務の省力化に努めてきた。利用者の利便性からパスワードの登録やメールアドレスの登録について利用者ができる様十分な期間を設け窓口で対応した。結果は、数値として18ページに示してある。

自己評価としては、コロナ禍であったが、可能な限り研修に取り組み派遣もできた。職員体制の見直しについては組織改正につなげた。また、窓口業務の効率化に関しては電話連絡業務を見直すことができた。

会長

専門性向上のためとあるが、この専門性とは何を意味しているのか。専門スタッフとは何を指しているのか

図書館長

専門スタッフとは、会計年度任用職員の職としてあり、司書有資格者である。専門スタッフは研修対象である。補助スタッフは、司書資格は求めている。

職員の専門性向上では、レファレンス能力の向上や児童サービス、著作権、司書専門研修等オンラインを含めて外部研修に派遣している。会計年度任用職員専門スタッフについては内部研修で外部講師等をお願いしレファレンス研修や接遇、児童サービス研修などを実施。図書館職員全体として、基本的な知識をさらに上乗せするものとして行っている。

- 会長 図書館としてこういった人材を育てたいかを視野に入れて行ったほうが良い。
- 図書館長 常勤職員については視野にいれ研修をして、自分自身が他の学校等で講師として研修を実施している。
- 委員 職員の割合を教えてください。
- 図書館長 常勤・再任用職員 40 名、専門スタッフ 37 名、補助スタッフ 37 名であるが、補助スタッフは時間単位で働いているので、フルタイムとすると 22.1 名である。
- 委員 利用者からすれば、有資格者かどうかわからないので、館内研修では最低限は築いてほしい。職員は十分システム等を理解し、対応にも差が無いようにしてほしい。
- 委員 専門スタッフの方も常勤の方も出来れば何年かに一度は外部専門研修に派遣してほしい。また、図書館でのキャリア形成をどうしていくか、計画的にやっていると人材は育成出来ない。5 年 10 年の話として長い目でキャリアを積んでいく仕組みがあると、多摩市版図書館のキャリアアップとして計画的に職員育成が出来るのではないか。
- 図書館長 育成計画は、簡単に取り掛かれるものではない。実際に職員育成は、図書館で経験を積み、他の部署に異動し、また戻ってきて、図書館で経験を積む等、ある程度のスパンの中で育成しているが、見える形になっていない。
- 委員 是非作っていただきたい。
- 予約資料の電話連絡をやめた効果が見えない。
- 図書館長 長い周知期間を取り、実務上、不便や大きな苦情もなく順調に進んでいる。
- 企画運営係長 メールアドレス・パスワードの登録率も増え、窓口業務の効率化、市民の利便性を高めることが出来た。
- 委員 電話連絡を今までしていた方には、伝えたのか。困るという人はいなかったか。
- 企画運営係長 ここで、メールアドレスを登録いただくと必ず、連絡が行くという案内をすることで、高齢の方でも登録いただいた。
- 委員 2 年以上貸出や予約を行っていない利用登録者を利用停止としたというのは、今までやっていなくて今回実施したのか。毎年行っているのか。
- 企画運営係長 利用者登録のデータメンテナンスは、前は定期的に行っていた。一旦、止めていたので、令和 2 年度から毎年行うこととした。今は、毎年やっている。

- 会長 議題を終了し、次に報告についてお願いします。
- 図書館長 パブリックコメントの実施と市民説明会について、市民説明会は3回実施するので日程が合えば是非参加してほしい。次に資料3-4であるが、貸室の運用について28ページだが、使用料が決定したので金額を示した。単価については多摩市公共施設の使用料設定に当たっての計算方法に基づいて決定した。もう1点が31ページの駐輪場の使用料についても金額を示した。パブコメでも説明会でもこの金額を示し意見等を頂く予定である。
- 会長 貸室の利用料の単価の根拠はあるか。
- 中央図書館
整備担当課
長 市では公共施設の使用料設定について基本方針を定めており、計算方法が決まっている。施設毎の維持管理経費や貸室の運用コストを計算した上で、貸室面積に応じて利用者負担額を定めている。
- 会長 では、すべての議事は終了した。
本日の第3回定例会は終了する。